

定例公安委員会の開催状況について

令和2年9月24日（木）に、第27回定例山形県公安委員会を開催し、議事の概要は次のとおりでした。

1 10月の行事予定

10月の行事予定について報告があった。

2 SNSに起因する子供の性被害防止のための広報啓発活動の取組状況について

SNS上における児童の性被害に繋がるおそれのある不適切な書き込みに対して、注意喚起のメッセージを送信し、被害を未然に防止することに重点を置いた広報啓発活動の取組状況について報告があった。

委員のコメント

- サイバーパトロールの成果が出てきたと感じる。検挙が難しい中で被害抑止に効果があったと思う。性被害に遭う方がだんだん低年齢化していると聞くので継続してほしい。
- 被害防止のため、SNS上の実態を親や学校にPRしてもらい、実態を理解させてほしい。
- 以前はインターネット掲示板だったが、今はSNSの方が多いか。この情報は是非、学校と共有してほしい。児童自身が書き込みをしている例もあるので、犯罪につながる使い方について注意喚起を促してほしい。

3 小学生の女子児童被害にかかる略取未遂事件の検挙について

小学生の女子児童被害にかかる略取未遂事件の検挙についての報告があった。

委員のコメント

- 機敏で周到な捜査が実を結んだものと思う。被害に遭った女子児童の精神的なストレス軽減にも配慮願う。
- 地道な捜査が極めて大事だ。全ての場所に防犯カメラ等があるわけではない。1件1件聞き込みをすることで検挙につながった。
- いきなり腕を掴まれたりすれば大人でも対応するのは難しい中で、よく女子児童が防犯ブザーを鳴らせた后感心する。それと大量の人員を速やかに投入した迅速さが功を奏したと思う。こういう事件の被疑者を早期に検挙できないと再犯のおそれもある。新型コロナウイルス対策で防犯教室等が開催しづらくなっているが、子供たちに実際に声を出させ、防犯ブザーを使う訓練をさせてほしい。

4 妨害運転被疑者の検挙について

いわゆるあおり運転を厳罰化した改正道路交通法施行後、本県では初めての立件となる妨害運転被疑者の検挙について報告があった。

委員のコメント

- ドライブレコーダーを活用して検挙につながったが、後方を撮影できるタイプのものが必要だ。場合によっては暴行を加えられる可能性もあり、県民の関心が高まっているので、引き続き取締りに努めてほしい。
- 一瞬感情的になってこうした犯罪を起こすのだろうが、2年間の免許取消しになる。新聞でも大きく報道されており、妨害運転の厳罰化が県民にも広く広報されたと思う。
- 住宅街での発生であり、夜間のパトロールも必要になってくると思う。

5 秋以降の歩行者被害の交通事故発生状況について

秋以降の歩行者被害の交通事故発生状況、交通事故防止に向けた施策等について報告があった。

委員のコメント

- 様々な交通事故の要因を考慮し、分析して対策を考えていると思う。どうしたら交通事故を減らすことができるかと考えた時に、ソーラーパネルを利用して縁石を光らせるようなインフラ整備等ができないかとも思う。
- 交通事故分析結果から、薄暮時間帯は危険だと言える。それと、夜光反射材を普及させるために、これからいろいろなアイデアが出てくると思うが、デザイン性の高いものが良い。
- 交通事故分析結果に基づき、焦点を絞った対策をとるのは理に適っている。歩行者の年代別通行目的等のデータも活用可能と思う。また、帽子に反射材を付けるのもよい。靴につけるタイプのもは意外に剥がれやすいので、エコバッグに付けられれば良いかもしれない。

6 海洋スクーバ訓練の実施について

最新の水難救助技術の習得や捜索技術等の向上を図ることを目的とした海洋スクーバ訓練の実施について報告があった。

委員のコメント

- 5年間で5件程度の出動とはいえ、大事な訓練である。山形県は川も多いので、いざという時のために準備をしなければならない。事故に気をつけて訓練してほしい。
- 海洋での訓練ということだが、川でも可能なのか。ダイバーの指定はどうしているか。(警備部長が説明した。)
- 出動回数が少ないにしても、実際に出動することがあるなら訓練は必要だ。川は流れがあるし、海水は流れも満潮、干潮もあり、海岸線の形状も様々だ。岩場もあり、離岸流などもあるので対策をとってほしい。

7 大規模複合災害を想定した災害警備訓練の実施について

大規模複合災害発生時における初動対処能力の向上を目的とした災害警備訓練の実施について報告があった。

委員のコメント

- 大雨が降る中、地震が発生したという複合災害に加えて、新型コロナウイルス対策も考慮した訓練は大掛かりであったが貴重な。交通パニックも起き得るだろうし、ヘリコプターも活用した意義のある訓練であった。
- こうした大規模な災害では、情報通信部の役割が重要である。どのような運用を行ったのか。災害対策本部員の指定はどうしているか。ヘリの運用は何に投入したのか。ヘリテレとホイストの両方には使えないのか。(情報通信部長と警備部長が説明を行った。) 大規模災害では消防との連携が不可欠である。その点の訓練も必要だと思う。
- 感染症対策とはいえ、対策本部を2か所に分けてやったことは意義がある。リモートはいろいろなトラブルが発生し得るので、実際にやってみることが必要だ。